



6月4日(水)「校長講話」校長先生のお話

おはようございます。

5月に行われた運動会では、皆さん一人ひとりが練習の成果を精一杯発揮し、そして仲間と協力し、スローガンにあるように「勝っても負けても楽しい運動会」でしたね。運動会での自分や仲間の頑張りを振り返り、自分に自信をもったり、これからの生活に活かしたりしていきましょう。運動会は終わりましたので、しっかりと気持ちを切り替えて、新しい目標や目当てを見つけて、一学期後半も頑張りましょう。

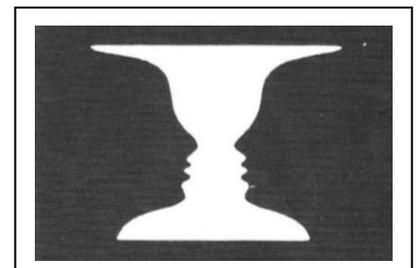
さて、もんだいです。

何に見えますか？もう一回見てみましょう。白に注目した人は、入れ物・うつわに見えたのではないのでしょうか。黒に注目した人は、向き合っている人の横顔を思い浮かべたのではないのでしょうか。『ルビンのつぼ』というアート作品です。同じものを見てもどこに注目するかで見え方がちがいます。

今日は、一冊の絵本『ひび割れつぼと少年』を読みます。『ルビンのつぼ』のことを考えながら聞いてください。

インドの田舎のお話です。そこでは水くみの少年たちが、毎日毎日、小川まで水をくみにいっていました。その水くみ少年は、二つの壺を持っていました。少年は棒の端にそれぞれの壺をさげ、くびに棒をかけて水を運びます。一つはひびのない壺で、小川からご主人の屋敷まで水をこぼさず運べます。もう一つは内側にひびがはいった壺でした。ひびわれ壺は屋敷につくまでに、水がもれて半分になってしまいます。2年の月日のあいだ毎日、少年はこの二つの壺を下げて屋敷と小川を往復しました。ひびのない壺は、水をもらさない自分をいつもえらいと思っていました。かわいそうなひび割れ壺は、自分のひびをとともはずかしく思っていました。自分の水がもれて半分になってしまうのが悲しかったのです。ひび割れつぼにとって悲しい2年間が過ぎ、ある日、小川のほとりで少年にはなしかけました。「わたしはこんな自分がとてもはずかしい」。

「なぜ？なにがそんなにはずかしいの？」。少年はききました。ひび割れ壺は答えました。「これまで2年間、わたしのひびから水がもれてしまいお屋敷まで半分の水しか運ぶことができませんでした。」「わたしのひびのせいで、あなたのお役にたてないのです。ほんとうにごめんなさい」。少年はこの古いひび割れ壺にやさしくいいました。「ここから屋敷へかえる途中にきれいな花が咲いていることに気がついてほしいな」。ひび割れ壺はかえりの丘で、美しい花々に気が付きました。太陽の光にあたたかく照らされた花をみて、すこし元気になりました。けれども、道が終わるころにはひび割れ壺の水は半分になっていました。彼はがっかりして、また少年にあやまりました。すると少年は言いました。「道ばたに花が、ひびのない壺の方ではなく、きみのほうにだけ咲いていることに気がついたかい？」「ぼくはいつもきみから水がもれるのに気が



ついていたよ。だからきみのほうにだけ花の種をまいておいたのさ。きみは毎日その花たちに水をあげてくれてたんだよ」「きみがひびのある壺だったから、ぼくは毎日ご主人さまのテーブルをきれいな花で飾れたんだ。ありがとう！」この水くみ少年は、ひびわれつぼの『ひび』を、どう見ていたのでしょうか・・・。



人は誰でも『欠点や弱点』をもっています。
でも、ひびわれ壺が自分で『欠点や弱点』と思っていたことも、この少年のように見方を変えると、『良さや強み』にもなるのです。

人（大人も子どもも）は、「自分のいいところ」には気づきにくいものです。だから・・・「友だちのいいところ」をいっぱい見つけていっぱい伝えてあげましょう。東小学校では、『自他を大切に子ども』を目指しています。そのために、お互いのちがいや個性を認め合える東小学校にしていきたいと思います。今日、私が紹介した本は、図書館の瀧澤先生に頼んで購入していただきましたので、興味のある人は、ぜひ、自分で読んでみてくださいね。

アプリコットタイムの発足会

5/28(水)の6時間目に4年～6年生対象の「アプリコットタイム発足会」が行われ、第1回アプリコットタイム(クラブ活動)が無事行われました。

アプリコットタイムの講師の皆様は、地域でご活躍のエキスパート(プロ)の皆様方です。

それだけにこんなに素晴らしいスタッフに囲まれて心強いことはありません。

1年間、児童のみなさんとアプリコットタイムの講師の皆様が、お互いに活動ができてよかったなと思えるように心がけていきましょう。



1

★お願い

日暮れが延びています。登下校とともに放課後の交通安全には十分注意してください。

